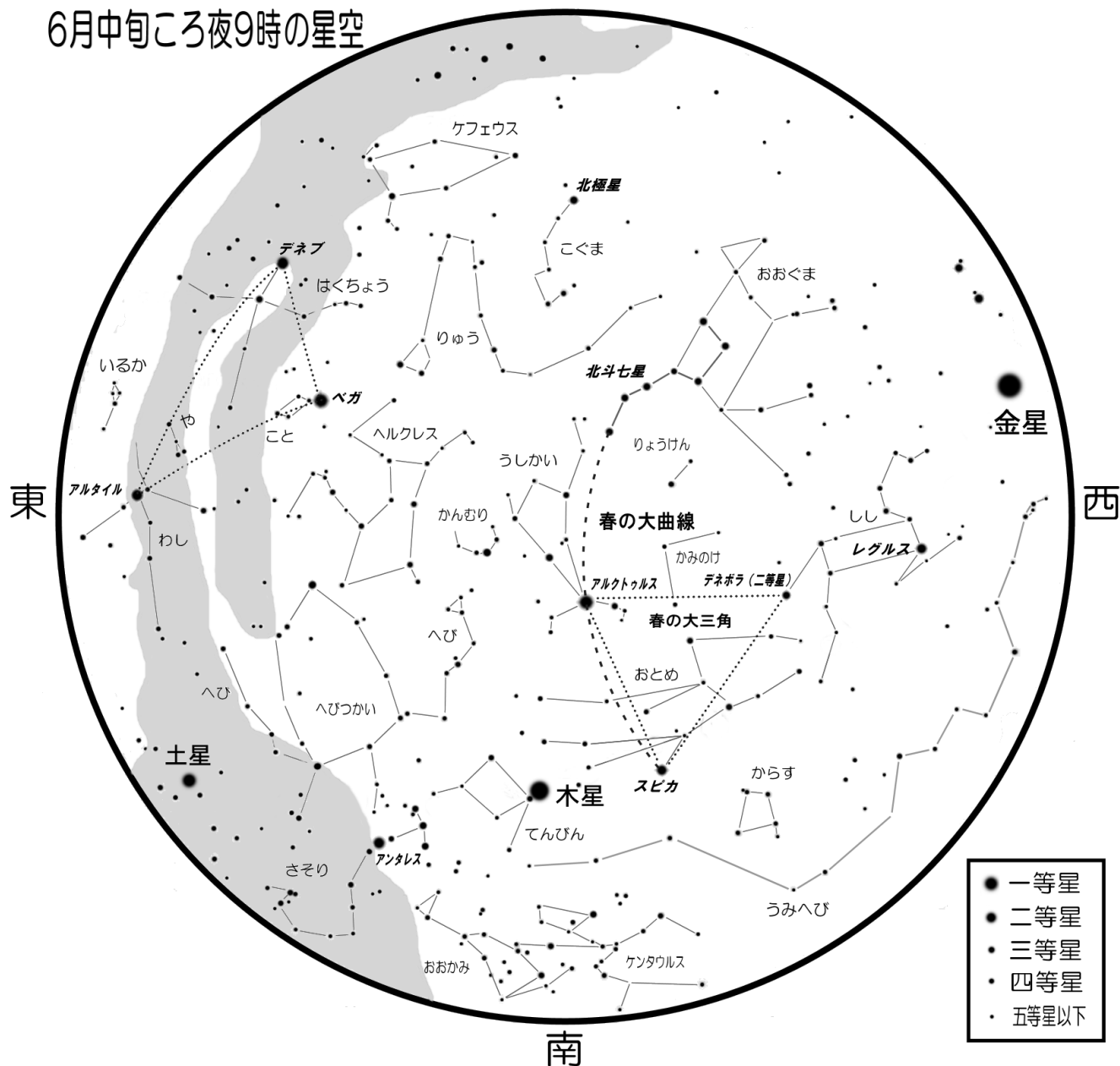


阿南市科学センター 6月の星空案内

北

6月中旬ころ夜9時の星空



6月と言えば、毎年梅雨の時期にあたることから、1年で一番星の観察が難しい時期となります。しかしながら、雨が降った後などには空気中の汚れが洗い流されることによって、思いのほか空の透明度が良くなり、星がよく見えることもありますので、この時期は雨上がりの晴れ間を狙ってみたいものです。

さて、今年の6月の夜空は、例年に比べ、少しにぎやかです。おなじみの春から夏の星座に加え、西の空に-4等級と非常に明るく「宵の明星」として有名な**金星**、南の空には-2等級の**木星**、東の空には0等級の**土星**という3つの惑星が輝いています。どれも小さな望遠鏡でも観察できますので、望遠鏡をお持ちの方はぜひ、これらの惑星に望遠鏡を向けてみて下さい。

天体観望会のご予約、お問い合わせは






阿南市科学センター 徳島県阿南市那賀川町上福井南川洲 8-1 電話 0884-42-1600

6月の月と惑星

月の満ち欠け

月の形	☾下弦の月	●新月	☽上弦の月	○満月
見える日	7日	14日	20日	28日

惑星

水星 	金星 	火星 	木星 	土星 
6月下旬ごろ日没後、西の超低空に見える。(-0.4等) 上旬~中旬は太陽に近く観察が難しい	夕方西の空に見える (-4.0等)	深夜、南東の空に見える (-1.4 → -2.0等)	夜9時ごろ、南の空に見える (-2.4 → -2.3等)	夜9時ごろ、東の空に見える (0.1等)

天文館夜間天体観望会 6月の見もの天体

○ おとめ座の銀河「M104」

今の時期は星占いの星座としても有名なおとめ座近辺を良く見ることができます。実はこのおとめ座を含め、お隣のかみのけ座、りょうけん座方向は、天の川がもっとも薄いエリアであることから、地球から遠く離れた銀河と呼ばれる天体が見やすくなっています。

銀河は数千万光年という遠方にあることから、天体望遠鏡で見ても光のシミ程度にしか見えませんが、その中には小さな望遠鏡でも観察可能な大きなものもあります。そのような大型の銀河のひとつがこの「M104」です。この天体はメキシコの帽子である「ソンプレロ」に形が似ていることから、別名「ソンプレロ銀河」と呼ばれていて、科学センターの大型望遠鏡で観察すると、銀河を貫くように見える暗黒帯は簡単に見ることができます。ただし、南に低い天体であることから、見え方は天気によって左右されますので、できるだけすっきり晴れた夜に観察してみたいものです。



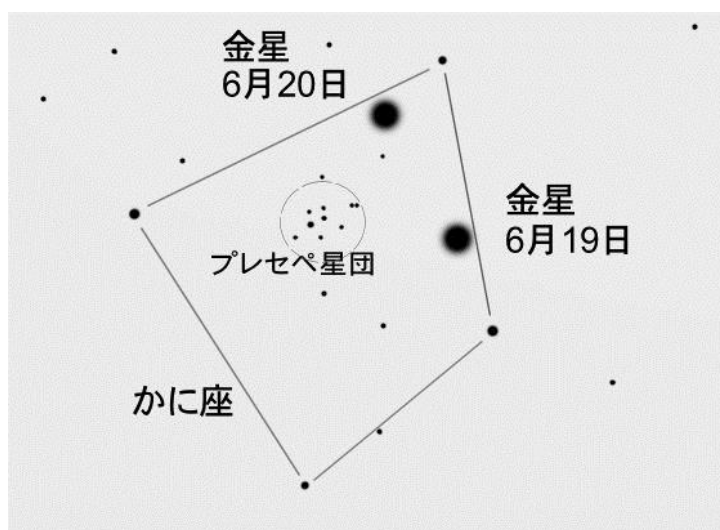
今月の天文現象

6月19日~20日 プレセペ星団と金星が接近

現在、金星が夕方の空に一番星として見えています。金星は月のように満ち欠けする天体ですから、天体望遠鏡を使って100倍程度で観察すると面白いのですが、小さな双眼鏡でも楽しめないことはありません。

ちょうど、今月19日から20日にかけて、そんな双眼鏡の出番がやってきます。この日、金星はかに座にある明るい散開星団「プレセペ」のそばを通過しますので、およそ倍率で5倍から10倍程度の双眼鏡で観察すると、プレセペ星団と金星がランデブーする様子を楽しむことができます。

ちなみに金星は、今後、9月ごろまで西の空で見ることができ、今回のプレセペ星団とのランデブーのほかに、7月10日にはしし座の一等星「レグルス」、7月16日には三日月、9月1日には、おとめ座の一等星「スピカ」に接近します。どれも美しい眺めとなりますから、ぜひ双眼鏡を使って観察してみましょう。



天体観望会のご予約、お問い合わせは

阿南市科学センター 徳島県阿南市那賀川町上福井南川洲 8-1 電話 0884-42-1600